

目次

第1章 概観（グローバル化と会計基準）	1
第1節 はじめに	1
第2節 グローバリゼーションとは何か	1
第3節 各国会計制度のグルーピングとその特徴 法制度の視点から	4
第4節 二律相反する目的の調和化に向けて	5
第5節 経営者と監査人に要求される判断の基本的考え方は何か	5
第6節 グローバル財務報告制度の課題	6
第2章 会計基準のグローバル化と概念フレームワークの統合化	8
第1節 はじめに	8
第2節 概念フレームワーク統合化の背景	8
第3節 概念フレームワーク構築の2つの視点	10
第4節 概念フレームワークの基底をなす一般的仮説	12
第5節 IASB改訂概念フレームワークの特徴と論点	14
第6節 概念フレームワークと原則主義会計	16
第7節 概念フレームワークの比較可能性と独自性 - 結びに代えて	19
参考文献	21
第3章 会計基準のコンバージェンスと原則主義	22
第1節 はじめに	22
第2節 IASBとFASBのMoUと会計基準の見直し	22
第3節 主要なプロジェクトの検討状況	25
第4節 基準改訂におけるキー概念	56
第5節 おわりに	59
第4章 金融危機と公正価値会計のゆくえ - 新たな財務報告の構築に向けて	60
第1節 プロローグ	60
第2節 公正価値会計の生成基盤 - なぜ、公正価値会計か	60
第3節 公正価値概念とその仮定をめぐる議論	61
第4節 市場のボラティリティと公正価値情報の役割	63
第5節 国際会計基準と公正価値会計 - IASB/FASBは公正価値会計か	64
第6節 金融危機と公正価値会計のゆくえ - エピローグ	65

参考文献	67
第 5 章 「原則主義」対「細則主義」と監査人の判断形成 - 先行研究の分析と第 1 次実験	69
第 1 節 本研究の背景	69
第 2 節 本研究の目的と課題	69
第 3 節 P & T の先行研究の概要	71
第 4 節 わが国における実験研究	72
第 5 節 総括	75
参考文献	76
第 6 章 会計基準のグローバル化と企業レポーティングのグローバル化	77
第 1 節 企業を取り巻く環境の変化と会計パラダイム及び財務報告のあり方	77
第 2 節 米国における無形資産情報の開示の議論の変遷	78
第 3 節 利用者の情報ニーズの基礎をなす諸概念	80
第 4 節 情報のエクスペクテーション・ギャップ	81
第 5 節 包括的財務報告モデル	84
第 6 節 知的財産財務報告	85
第 7 節 包括的財務報告モデル	86